

岐阜県山県市（国内 6 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和 6 年 1 月 5 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 基本情報

用途（飼養羽数）：肉用鶏（約 5 万羽）

発生家きん舎の構造：2 階建てウインドウレス鶏舎

発生家きん舎の飼養形態：平飼い

2 農場の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は雑木林に囲まれている。調査時、農場から約 100m のため池ではカルガモ 11 羽、コガモ 6 羽等の水鳥類が認められたほか、多数のシカの糞が確認された。約 800m のため池ではカルガモ 5 羽、マガモ 4 羽、約 1.2km の河川ではオシドリ 19 羽が確認された。
- ② 当該農場には、発生鶏舎 1 棟を含むウインドウレス鶏舎 5 棟（うち発生鶏舎のみ前室あり）のほか、堆肥舎が設置されていた。発生鶏舎の各階の前室は外階段で行き来し、各階の飼養区画は樹脂製の網で南北に仕切られていた。

3 通報までの経緯

- ① 飼養管理者によると、発生鶏舎 2 階（通報時 44 日齢）における通常 1 日当たりの死亡羽数は 5～6 羽であり、1 月 1 日の死亡は 12 羽、2 日は 24 羽でフロア全体に散在し、3 日は 54 羽が入気口側に多く見られたが複数羽まとまってはいなかったとのこと。1 月 3 日夜の健康観察（鶏舎前室の覗き窓から観察）では起立不能の個体が一部見られた程度であったが、1 月 4 日朝の健康観察（鶏舎内に立入り）で 12,000 羽中 162 羽が死亡しているのを確認したことから、管理獣医師に連絡。管理獣医師が実施した簡易検査で陽性となり、家畜保健衛生所に通報したとのこと。
- ② 飼養管理者によると、発生鶏舎 2 階の北側（山側）区画の鶏舎入口から約 10m のエリアで 20 羽程度まとまって死亡がみられたとのこと。調査時は、発生鶏舎 2 階では北側区画の鶏舎入口に近いエリアで多くの死亡鶏が確認され、生鶏は活力が低下し、沈鬱症状を示す個体も確認された。また、発生鶏舎 1 階においても死亡鶏が散在して確認された。他の鶏舎では異状は見られなかった。
- ③ 12 月 26 日に全鶏舎から採材して実施した出荷前鳥インフルエンザ検査（外部委託）の結果は全て陰性だったとのこと。

4 管理人及び従業員

- ① 飼養管理者によると、当該農場では作業従事者 4 名（飼養管理者夫妻及びその両親夫妻）が勤務しており、各鶏舎の担当者はほぼ固定で決まっているとのこと。

5 農場の飼養衛生管理

- ① 当該農場出入口は 2 か所あり、1 か所は来場者用出入口で西側公道に隣接しており、もう 1 か所は従業員のみが使用する自宅と 5 号鶏舎の間の出入口であり、いずれも立入禁止札とチェーンで区分されていた。
- ② 飼養管理者によると、衛生管理区域内に立ち入る飼料運搬業者及び管理獣医師は、農場出入口に設置されている訪問記録に記入し、手指消毒及び踏込み消毒を行い、車両消毒を手動噴霧器により来場者自身で行い入場するとのこと。来場者は農場用作業着及び靴を着用して来場するとのこと。管理獣医師は、持参した農場用防護服及び長靴を着用して入場し、異状がない場合は鶏舎内には立ち入らず鶏舎前室の覗き窓から観察するとのこと。管理獣医師が鶏舎内に立ち入る場合には、農場に設置されてい

る鶏舎用長靴を着用し、農場用防護服の上に鶏舎用防護服を着用するとのこと。直近の管理獣医師の訪問は12月26日で、鶏舎内には立ち入らなかったとのこと。

- ③ 従業員は隣接する自宅で手洗いをし、農場用作業着及び長靴を着用して、徒歩で自宅側農場出入口から入場し、手指消毒は実施していないとのこと。
- ④ 従業員が鶏舎に入る際には、発生鶏舎1階及び2階のそれぞれの鶏舎前室外に設置された踏み込み消毒槽（オルソ剤と逆性石けんの複合剤、週1回程度交換）で消毒の上、長靴は前室外で脱ぎ、前室内に置かれた鶏舎専用長靴に履き替え、手指消毒を実施しているとのこと。
- ⑤ 消石灰は農場及び鶏舎の出入口付近には週1回程度、鶏舎周囲には月1回程度散布しているとのこと。
- ⑥ 発生鶏舎南側には大型及び小型の排気用換気扇がそれぞれ複数台設置されており、サーモセンサーにより気温に応じて稼働・停止し温度調整を行っていたとのこと。大型換気扇は停止時に外部シャッターが閉じるが、小型換気扇は常時開口していた。北側の入気口外側には寒冷紗が掛けられていた。
- ⑦ 発生鶏舎内の複数箇所に比較的新しい補修跡が認められた。
- ⑧ 鶏舎横の飼料タンク上部には蓋が設置されており、鶏舎内のラインを通じて自動給餌を行っているとのこと。飼養鶏への給与水は地域で管理している水道を利用しており、消毒は実施されていないが年1回水質検査を実施しているとのこと。
- ⑨ 鶏糞は、オールアウト時に鶏舎南側の出荷口からショベルカーにより鶏糞ダンプに搭載され、堆肥舎へ運ばれるとのこと。機材は使用後に洗浄、消毒を実施しているとのこと。鶏糞は堆肥舎内のボイラーで毎日燃やし、鶏舎の床暖房に利用しているとのこと。堆肥舎出入口には網目約3cm四方の防鳥ネットが設置されているが、毎日ボイラー作業のため出入りすることからネットを開けた状態にしておくこともあるとのこと。ネットを閉めた状態では上部や下部に隙間が見られ、ネットの破損箇所も確認された。
- ⑩ 死亡鶏は毎朝の健康観察時に回収して袋に入れ、堆肥舎内の容器に蔵置しているとのこと。容器に蓋等はされていない。死亡鶏は定期的にレンダリング業者が回収しており、直近の回収は約1か月前とのこと。
- ⑪ 重機、器材等の他農場との共用は行っておらず、従業員の行き来もないとのこと。

6 野鳥・野生動物対策

- ① 農場内ではイノシシ、タヌキ、イタチ等の哺乳類や野鳥を見かけるとのこと。鶏舎内では、時折ネズミを見かけるためネズミ用粘着シートの設置及びオールアウト時の殺鼠剤で対策しているとのこと。
- ② 調査時、発生鶏舎内にネズミの痕跡は認められなかった。発生鶏舎周囲ではシカの糞が確認された。また、農場内ではイノシシによる掘り起こし跡が確認された。

（以上）